

## ◆最優秀賞◆

### 私の大切な祖母のために

江陽中学校一年

山倉芽

私は、今年の七月に、八十歳になつた祖母がいます。祖母の家は、私の自宅から歩いていける距離なので、幼い頃から、母が仕事の時に行つたり、学校の帰りに寄つたりしています。住んでいる家は違つても、私にとって祖母は、家族で、とても身近な存在です。

今年も夏休みには、祖母の家に何度も行きました。学校がある日とは違ひ、のんびりとできる祖母との時間。のはずが、なんだか変だなと思うことがたくさんありました。

話したことを忘れてしまつたり、前の日のご飯が思い出せなかつたりすることは、これまでもありました。こんなときは、物忘れを放つておくと進行してしまつと思つて、一緒に話して、思い出すようにしてもらつていました。こうすると、祖母も思い出していたのです。

ところが、この夏の祖母は、がんばつて思い出そうとすることが面倒になつてしまつたようで、会話は続きませんでした。私は、祖母の物忘れがだんだんとひどくなつてきて、悲しくなりました。

そんな時、認知症サポーターの講座を受ける機会がありました。この講座の中で、認知症には、「中核症状」と「行動・心理症状」があるということを知りました。「中核症状」は、残念ながら治らないようですが、「行動・心理症状」は、治る可能性があるそうです。

私は、講座を聞きながら、ほつとしました。明るい光が見えてくるように思いました。なぜなら、それが難しいことでも何でもなかつたからです。「大丈夫だよ。」と理解を示して優しく接すること。これで、これだけで、「行動・心理症状」が治ることにつながり、「中核症状」をやわらげることにもつながるそうです。

「違うよ。」と笑いながらでも、祖母を否定したりしないでおこうと私は心に決めました。私は、祖母の物忘れの進行を止めようとするあまり、必死になりすぎて、余裕を失つていたかも知れないと反省しました。祖母だって忘れたくて忘れたわけではないのです。

また、ある日、高齢者よろず相談センターの方が祖母の家に家庭訪問に来ました。センターの方は、デイサービスや介護保険など、いろいろな話を丁寧にしてくださつていました。聞いている祖母も、だんだんと前向きな気持ちになつていつているように見えました。それは、祖母の気持ちに寄りそいながら、センターの方が話していらつしやつたからだと思います。

少し前まで「もうすぐ死ぬんだからいいじやない」という言葉を口にしていた祖母ですが、祖母がそんなことを言わないように私が変わらなきやと思いました。祖母には楽しく長生きしてもらえるように、祖母のペースを大切にしながら過ごしていこうと思います。